

社会貢献できる看護実践者



臨地実習 看護の統合と実践実習

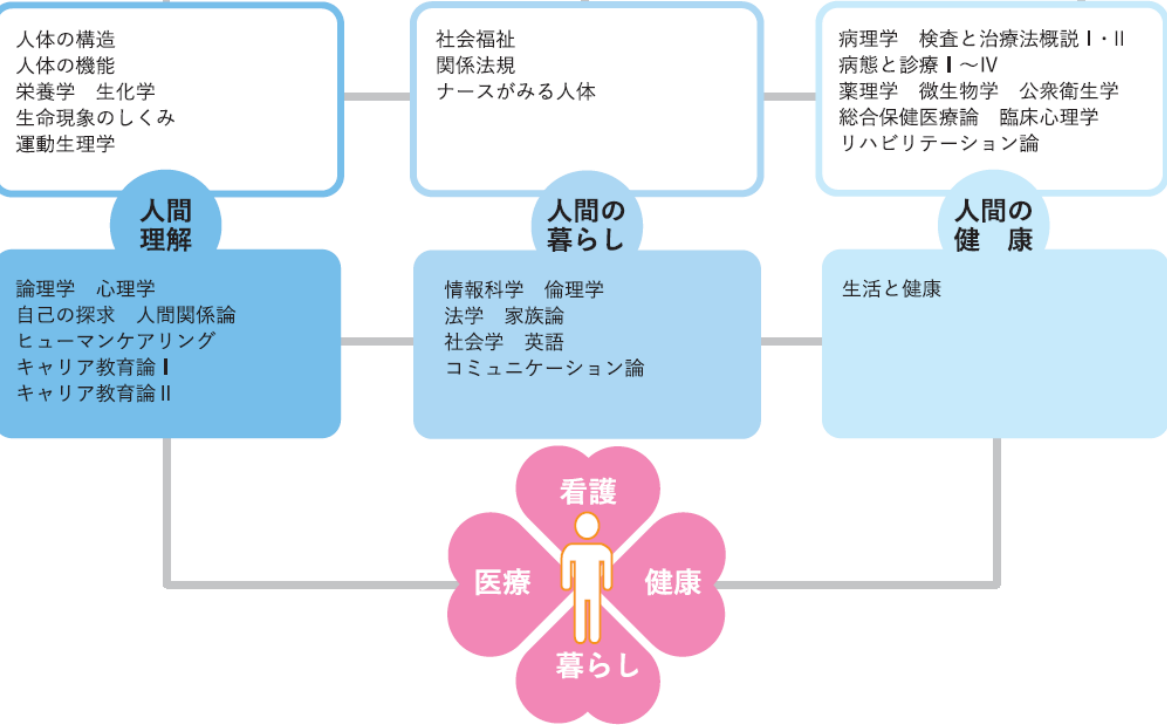
看護の統合と実践	看護研究方法論 看護管理と医療安全 国際看護 災害看護 看護技術の統合 多職種連携 総合学習
小児看護学	小児看護学概論 小児疾患の病態と診療 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ
母性看護学	母性看護学概論 周産期の診療 妊産婦の援助論 母と子の援助論
精神看護学	精神看護学概論 精神疾患の病態と診療 精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ
老年看護学	老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護援助論Ⅲ 認知症看護
成人看護学	成人看護学概論 周手術期援助論 成人看護援助論Ⅰ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 臨床推論
地域・在宅看護論	地域の理解 在宅ケアシステム 地域・在宅看護の対象理解 地域・在宅看護概論 在宅看護技術 対象に応じた在宅看護
基礎看護学	基礎看護学概論 看護リフレクションⅠ・Ⅱ・Ⅲ 共通技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日常生活援助論Ⅰ・Ⅱ 診療・検査時の援助論 治療・処置時の援助論 臨床看護総論 臨床判断

- 臨地実習
- 小児看護学実習
 - 母性看護学実習
 - 精神看護学実習
 - 地域・在宅看護論実習
 - 成人・老年看護学実習Ⅲ
 - 成人・老年看護学実習Ⅱ
 - 成人・老年看護学実習Ⅰ
 - 基礎看護学実習Ⅲ
 - 基礎看護学実習Ⅱ
 - 基礎看護学実習Ⅰ

専門分野

専門基礎分野

基礎分野



2024年度入学生 教育課程（3年間）

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	1	30
		論理学	1	15
		倫理学	1	15
		法学	1	15
		キャリア教育論Ⅰ	1	30
		キャリア教育論Ⅱ	1	15
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30
		人間関係論	1	15
		社会学	1	30
		英語	1	30
		コミュニケーション論	1	15
		家族論	1	15
		生活と健康	1	15
		自己の探求	1	15
	ヒューマンケアリング	1	15	
小計			15	300
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30
		人体の機能	1	30
		生化学	1	30
		栄養学	1	15
		生命現象のしくみ	1	15
		運動生理学	1	15
		ナースがみる人体	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30
		検査と治療法概説Ⅰ	1	30
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅰ	1	30
		病態と診療Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅲ	1	30
		病態と診療Ⅳ	1	30
		薬理学	1	30
	微生物学	1	30	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30
		社会福祉	1	30

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	関係法規	1	30
		総合保健医療論	1	15
		臨床心理学	1	15
		リハビリテーション論	1	30
	小計		22	585
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
		看護リフレクションⅠ	1	30
		看護リフレクションⅡ	1	30
		看護リフレクションⅢ	1	30
		共通技術論Ⅰ	1	30
		共通技術論Ⅱ	1	30
		共通技術論Ⅲ	1	30
		日常生活援助論Ⅰ	1	30
		日常生活援助論Ⅱ	1	30
		診療・検査時の援助論	1	30
		治療・処置時の援助論	1	30
		臨床看護総論	1	30
		臨床判断	1	15
		地域・在宅看護論	地域の理解	1
	在宅ケアシステム		1	30
	地域・在宅看護の対象理解		1	15
	地域・在宅看護概論		1	30
	在宅看護技術		1	30
	対象に応じた在宅看護		1	30
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		周手術期援助論	1	15
		成人看護援助論Ⅰ	1	30
		成人看護援助論Ⅱ	1	30
		成人看護援助論Ⅲ	1	30
		臨床推論	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	1	30
		老年看護援助論Ⅰ	1	30
		老年看護援助論Ⅱ	1	30
		老年看護援助論Ⅲ	1	15
		認知症看護	1	15

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
専門分野	小児看護学	小児看護学概論	1	30
		小児疾患の病態と診療	1	15
		小児看護援助論Ⅰ	1	30
		小児看護援助論Ⅱ	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	1	30
		周産期の診療	1	15
		妊産婦の援助論	1	30
		母と子の援助論	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	1	30
		精神疾患の病態と診療	1	30
		精神看護援助論Ⅰ	1	30
		精神看護援助論Ⅱ	1	15
	看護の統合と実践	看護研究方法論	1	30
		看護管理と医療安全	1	30
		国際看護	1	15
		災害看護	1	15
		看護技術の統合	1	30
		多職種連携	1	15
		総合学習	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40
		基礎看護学実習Ⅱ	2	80
		基礎看護学実習Ⅲ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	80
		地域・在宅看護論実習	2	80
小児看護学実習		2	80	
母性看護学実習		2	80	
精神看護学実習		2	80	
看護の統合と実践		4	160	
小計			72	2225
合計			109	3110

2026年度 教育課程（3学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ	
分野基礎	科学的思考の基盤	法学	1	15		141	
	人間と生活、社会の理解	英語	1	30		142	
		小計	2	45			
専門基礎	人体の構造と機能	運動生理学	1	15		143	
	健康支援と社会保障制度	総合保健医療論	1	15	試験時間含む	144	
		小計	2	30			
専門分野	基礎看護学	看護リフレクションⅢ	1	30		145	
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全		1	30		146-147
		国際看護		1	15		148
		災害看護		1	15		149
		看護技術の統合		1	30		150-151
		多職種連携		1	15	試験時間含む	152
		総合学習		1	30		153
	臨地実習	地域・在宅看護論実習		2	80		154
		成人・老年看護学実習Ⅲ		2	80		155
		小児看護学実習		2	80		156
		母性看護学実習		2	80		157
		精神看護学実習		2	80		158
		看護の統合と実践		4	160		159
			小計	21	725		
			総合計	25	800		

科目名 法学	授業担当者 中川 修一	所属 ノースアジア大学	
開講時期:前期	単位数:1単位	時間数:15時間	
授業の目的 これから法学を学ぼうとする受講生に、実質社会において法の役割分担を、入門的な理解を通じて法的な考え方になれるように授業を進める。			
授業の概要 ここでは、従来のような法学の教科書のようなテーマごとに関係するものを全て、何でもかんでも詰め込んで教えるわけではありません。皆さんの日常生活で法とどのように結びついているかを理解していただくこと。また、社会人になった時、「気づくこと」「調べること」「考えること」を授業を通じて理解していただくこと。			
受講上の注意・事前学習の内容 配布資料を事前によく読んで授業に臨んでください。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	法とは何か	講義	
2・3	生活を守る法 (1)交通事故と法 (2)売買や賃貸借など契約と暮らしに関する法 (3)ライフスタイルの選択 (4)お金にまつわる問題	講義	
4・5	法と制度と施策(社会保障と社会福祉・保険法) (1)医療封建制度(保障) (2)年金制度 (3)医療と法 (4)障害者問題	講義	
6	成人後見制度	講義	
7	労働者保護法(一連のハラスメント)	講義	
8	財産の行方(死んでからでは遅い)	講義	
	試験		
テキスト 末川博編 法学入門 有斐閣			
参考書・指定図書 授業の時に説明します			
評価の方法 小テスト、期末試験などを含め総合評価します			

科目名 英語	授業担当者 大西 洋一	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
授業の目的 国際化が進む日本の医療機関において、将来看護師として活用しうる英語コミュニケーション技術の基礎を養う。			
授業の概要 医療現場でのコミュニケーションに関わる英語の語彙と会話表現を学び、看護師に必要な基本的英会話スキルを習得するとともに、医療に関わる簡単な英文を読解する力を身につける。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前に各回で扱うユニットに目を通し、知らない単語を調べて予習しておくことが望ましい。また、授業には英和辞書(電子辞書でも紙辞書でも可)を持参すること。なお、毎回の授業において、勉強した内容に関する簡単な復習小テストを行う予定である。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	Unit 1: May I Help You? 初診受付の流れ①	演習	
2	Unit 2: Where Do You Live? 初診受付の流れ②	演習	
3	Unit 3: Do You Have an Insurance Card? 初診受付の流れ③	演習	
4	Unit 4: What Department Do You Want to Visit? 患者を案内する	演習	
5	Unit 5: What Are Your Symptoms? 患者の症状を聞く	演習	
6	Unit 6: Take One Tablet Three Times a Day 薬の処方	演習	
7	Unit 7: You're Suffering from Hay Fever 診察の流れ	演習	
8	Unit 8: What Kind of Pain Is It? 外科診療の流れ	演習	
9	Unit 9: Let's Check Your Daily Activities 問診の流れ	演習	
10	Unit 10: Let's Check Your Pulse and Blood Pressure 診察前計測	演習	
11	Unit 11: It's Going to Be a Long Day! 患者の検査	演習	
12	Unit 12: You Have High Blood Sugar Levels 検査結果の説明	演習	
13	Unit 13: You Need to Control Your Diet 入院のすすめ	演習	
14	Unit 14: You Need to Be Hospitalized 入院前の説明	演習	
15	Unit 15: Keep on Walking for Exercise 退院後のアドバイス	演習	
	試験		
テキスト 樋口晶彦 / John Tremarco 著『Check-Up! Basic English for Nursing 基礎から学ぶやさしい看護英語』金星堂			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験(50%、授業での取り組み状況(20%)、小テスト(30%)から総合的に評価する。			

科目名 運動生理学	授業担当者 松下 翔一	所属 秋田大学教育文化学部	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 現代人の行動特性から、生活習慣病等への影響を理解する。また、より良い健康行動を再確認することによって QOL の維持及び向上のために必要な方法を学ぶ。そして、看護の側面から、健康の理解と解決のあり方について学ぶ。			
授業の概要 1. 運動生理学の基礎理論を基に、身体活動やスポーツの実際を行う。 2. 理論や実際を通して、自身の生活習慣の改善の一助としてもらいたい。 3. 危険の予測や怪我の予防も踏まえた上で、前に踏み出す勇気を持って取り組んでもらいたい。			
受講上の注意・事前学習の内容 運動をするのに適した服装を着用すること(トレーニングシャツ、トレーニングパンツ、シューズ等) アクセサリ類(ピアス等)は、危険なので授業時には身に付けないこと 授業中は、各自必要に応じて水分を補給するよう心掛けること ケガや事故には十分に注意すること(授業時のウォームアップをしっかりと行うこと)			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	運動による身体の変化とスポーツの意義について	講義	
2	バレーボール	実技	
3	バレーボール	実技	
4	バレーボール	実技	
5	ドッチボール	実技	
6	ドッチボール	実技	
7	バレーボール	実技	
8	バレーボール	実技	
テキスト			
参考書・指定図書 筋力トレーニングの理論と実践 Vladimir Zatsiorsky 大修館書店			
評価の方法 授業態度、実技およびレポートの取り組み状況から総合的に評価する(100 点満点中、実技:50 点、レポート:50 点)。			

科目名 総合保健医療論	授業担当者 小貫 渉	所属 中通リハビリテーション病院 医局	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割と仕組みを理解できる能力を養う。 2. 専門職としての倫理的態度を習得し、医療・看護に関わる本質的問題に対する自己の考えを深める。			
授業の概要 医療に関する様々な問題点と、社会保障制度について理解を深める。			
受講上の注意・事前学習の内容			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	医学・医療の歴史と現代の医療の問題	講義	
2	生活環境と疾病構造の変化	講義	
3	医療保険制度と医療供給体制	講義	
4	社会保障制度における平等とは	講義	
5・6	医療における患者の権利(インフォームドコンセントについて)	講義	
7	医療統計について	講義	
8	試験		
テキスト 新体系 看護学全書 専門基礎 現代医療論 メヂカルフレンド社			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験およびレポート			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護リフレクションⅢ	授業担当者 渡部 暢子 他	所属 中通高等看護学院	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに依り、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。			
授業の概要 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、2年次に学んだスキルを活用し、臨地実習の場면을リフレクションする。実習終了後に自らの経験を価値化することで、省察する力を高めることができる。ナラティブからリフレクティブな思考や多様性の理解も深めることができる。			
受講上の注意・事前学習の内容 実習ポートフォリオファイルと1年次から使用しているリフレクションノートを持参して臨む。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1・2	看護リフレクションⅢとは	講義・演習	渡部
3～14 回目までは、成人・老年Ⅲ、小児、母性、地域・在宅、精神、統合の6つの実習科目で2回ずつ行う。			
例)3・4	成人・老年看護学実習Ⅲの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
5・6	小児看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
7・8	母性看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
9・10	地域・在宅看護論実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
11・12	精神看護学実習の場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
13・14	看護の統合と実践実習の場面のリフレクション		
15	看護の統合と実践実習の リフレクション (再構成したグループで交流)	個人・グループワーク	実習担当教員
テキスト 田村由美/池田悦子著 看護の教育・実践にいかすリフレクション ―豊かな看護を拓く鍵― 南江堂			
参考書・指定図書 看護のためのリフレクションスキルトレーニング 看護の科学社 「シミュレーション教育の効果を高める」ファシリテーターSkills&Tips 医学書院			
評価の方法 各実習場面でリフレクションノート提出、リフレクションアセスメント指標を用いた評価レポート			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名	授業担当者	所属	
看護管理と医療安全(1)	千葉 直美	中通総合病院	
看護管理	福岡 優子	中通総合病院	
開講時期 : 中期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(看護管理 16 時間)	
授業の目的			
看護を組織として機能させるための看護管理の目的や機能を学び、将来、組織の一員として自律的に動ける基礎能力を養う。			
授業の概要			
看護は一人では完結しない。複数の専門職が連携し、24時間365日絶え間なく質の高いケアを提供するためには、バラバラの個を一つにまとめ上げる「組織化」が必要となる。本講義では、なぜ看護師に「管理」の知識が必要か、マネジメントの要素、自分の役割と管理者の役割の相互作用の理解などを学ぶ。この講義を通じて、病院という大きなチームの中で自分がどのように輝き、貢献できるのかのヒントを見つけてほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容			
前日までに資料を送信します。グループワークの際に、前後・左右の人と5～6人で話し合えるように移動をお願いします。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護におけるマネジメント	講義・演習	千葉
2	看護ケアのマネジメント	講義・演習	千葉
3	看護職としてのセルフマネジメント	講義・演習	千葉
4	看護サービスのマネジメント①	講義・演習	千葉
5	看護サービスのマネジメント②	講義・演習	福岡
6	看護サービスのマネジメント③	講義・演習	福岡
7	マネジメントに必要な知識と技術	講義・演習	福岡
8	看護を取り巻く諸制度	講義・演習	福岡
	試験		
テキスト			
系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法			
筆記試験(看護管理と医療安全 100 点満点中の 50 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護管理と医療安全(2) 医療安全	授業担当者 佐藤 美幸 齊藤 由美子	所属 中通総合病院 中通総合病院	
開講時期 :前期～中期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間(医療安全 14 時間)	
授業の目的 医療の現場に潜む危険を認識し、回避する方策と患者安全上すべき事を理解し、医療従事者として患者および自らの安全を守ることの重要性を学ぶ。			
授業の概要 看護師は医療サービスの最終行為者となることが多く、医療サービスの提供の場である病院では様々な危険が存在する。医療事故防止は、組織的な安全のためのシステム作りと、看護師が危険を予知し安全のための対策を実施することが重要である。リスクマネジメントは、医療事故の未然防止・再発防止、苦情の防止、医療訴訟対応といった連続的な関わりに対して取り組まれるものであり、その目的は人権の尊重と医療の質の確保と質の向上である。日本の医療安全対策の動向や過去の医療事故など具体的事例をもとに参加型授業形式とする。			
受講上の注意・事前学習の内容 テキスト、講義資料より事前学習・復習に取り組む。テキスト内の「用語解説」等を活用し、用語の理解に努めてほしい。講義中に紹介する情報を参考に興味を持ち、積極的な講義への参加が望ましい。講義の内容によってはグループワークを行うこともある。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	医療安全と看護理念、看護学生の実習と安全	講義	佐藤
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価・医療事故後の対応	講義	佐藤
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義	佐藤
4	患者・家族との協同と安全文化の醸成	講義	佐藤
5	診療の補助に関する安全管理	講義	佐藤
6	看護業務に関する医療事故と安全対策 地域における在宅療養者の安全対策	講義	佐藤
7	看護師の労働安全衛生上の事故防止(職業感染と予防策)	講義	齊藤
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 医療安全 医学書院 川村治子著 医療安全ワークブック 第5版 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 授業への参加態度と取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。 医療安全と災害看護 100 点満点の中の 50 点 (医療安全:40 点、感染対策:10 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 国際看護	授業担当者 夏原 和美	所属 東都大学 沼津ヒューマンケア学部 看護学科	
開講時期:前期	単位数:1 単位	時間数:15 時間	
授業の目的 国際保健・看護に関する概要を理解するとともに、多様な価値観を受け入れ、文化を考慮したケアを行うのに必要な「固定概念にとらわれない幅広く柔軟な考え方」を身につける。			
授業の概要 これからの看護師には、文化への理解を持ち個人を深く捉え対応する能力と、地球全体を含めた環境へのグローバルな視点が求められている。私たちが生きている社会の特徴を踏まえ、そこで人権を尊重した看護を行うためには何が必要かを考えていく。授業ではテーマについて知識をインプットするだけでなく、自分の考えをまとめ、それを共有するグループディスカッションの時間を持つことで、多様な考え方に触れる機会とする。			
受講上の注意・事前学習の内容 事前事後課題は GoogleForm を使って提出してもらいます。提出し忘れた場合、メールで連絡の上で 1 週間以内であれば遅れて提出として受け取ります(ただし、3 割の点数)。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業の進め方オリエンテーション/ 世界の現状を想像する・知る	講義・グループワーク	授業中にクイズ#1 Gapminder Quiz 事後課題:この講義の自分なりの目的と目標
2	文化とケア	講義・グループワーク	アンコンシャスバイアスについて他事後課題
3	世界の人びとの健康課題・健康に関わる諸要因	講義・グループワーク	WHO 死因分類について事前課題
4	プライマリ・ヘルスケア	講義・グループワーク	村の保健ワーカーへの言葉他プリントを読むで行う事前課題
5	国際協力活動・国際医療活動	講義・グループワーク	動画を見て考える事前課題
6	世界のセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ	講義・グループワーク	動画を見て考える事前課題
7	世界の看護師	講義・グループワーク	世界の看護師について情報収集しまとめる事前課題
8	学びの俯瞰	講義・グループワーク	成長報告書
	試験		
テキスト テキストは特に指定せず、プリントを配布する			
参考書・指定図書 Where There Is No Doctor. (2025.02.13 アクセス確認) http://hesperian.org/books-and-resources/resources-in-japanese/#			
評価の方法 事前事後課題 40%、最終テスト 60% 以上から総合的に評価します。発表協力や良い質問などで加算点あり。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 災害看護	授業担当者 佐藤 玲希	所属 中通総合病院	
開講時期: 中期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
授業の目的 災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割を習得する			
授業の概要 災害が、社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら健康やこころ・生活に影響することを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割、演習を通じて実際の避難所支援を想定した室内の配置、情報収集・共有等の重要性を学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 災害についてどのようなイメージを持っているか、また、災害時の情報を得るツールに関してどのようなものがあるか等、学習内容に応じた事前学習をして授業に臨んでほしい(講義の予習をしてきていることを前提に、個別に発表してもらうため)。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	災害看護学を学ぶ意義、災害及び災害看護に関する基礎知識	講義	
2	災害と情報	講義	
3	災害トリアージとは	講義	
4	災害トリアージ	演習	机上
5	災害サイクルに応じた看護	講義	
6	被災者特性に応じた災害看護の展開、災害と心のケア	講義	
7	避難所運営の実際(ペーパーシミュレーション)	演習	グループワーク
8	避難所運営の実際(ペーパーシミュレーション)	演習	グループワーク
	試験		
テキスト 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院			
参考書・指定図書 小井土雄一 石井恵美子監修 多職種連携で支える災害医療～身につけるべき知識・スキル・対応力～ 医学書院 小原真理子 酒井明子監修 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂 3 南山堂 山崎達枝 編 災害現場でのトリアージと応急処置 第3版 日本看護協会出版会			
評価の方法 授業及び演習への参加姿勢(グループとしての運営、発表内容、意見交換時の積極性 その他) と筆記試験で総合評価(100 点満点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護技術の統合	授業担当者 近江 薫	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
授業の目的 複数の事例に対して看護技術を運用し、評価する方法の基礎を学ぶ。			
授業の概要 健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげる。臨床現場を想定した多重課題のシナリオ作成とロールプレイングを通して、ベッドサイドでの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学ぶ。			
受講上の注意・事前学習の内容 成人・老年看護学実習Ⅲ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得した学生が履修する科目である。直後に控えた「看護の統合と実践実習」において複数事例の多重課題に対し、どのように優先順位を判断し、行動するのかを考える授業となる。実習だけでなく、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かされるよう、積極的な姿勢で講義やワークに取り組んでほしい。資料については各自プリントアウトして臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業計画ガイダンス、事例提示	講義	
2・3・4	2 事例のアセスメント・看護計画立案	個人ワーク	
5	看護計画発表会	グループ学習	
6	多重課題への対処	講義	
7・8・9	シナリオ作成、ロールプレイング準備	グループ学習	プロジェクト学習
10	記録(実践結果、評価)の仕方 ロールプレイング準備	講義・ グループ学習	プロジェクト学習
11・12	ロールプレイング発表会 記録(実践結果、評価)	グループ学習・ 個人ワーク	プロジェクト学習
13・14	記録指導を受け修正	個人ワーク	
15	振り返りレポート、授業のまとめ	講義・個人ワーク	
テキスト 系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院			
参考書・指定図書 課題に準じる。			
評価の方法 ①看護計画: 35 点 ②シナリオ、ロールプレイング: 42 点 ③振り返りレポート、全体: 23 点 教員による評価、グループによる評価、自己評価 合計 100 点で評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	看護技術の統合 「臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動しよう！」プロジェクト	
主講師(ファシリテータ・協力者)	近江 薫 (佐々木聖子・小田嶋陽子・清水有香・工藤洋平)	
受講対象	3年生 34名	
学習概要 (社会的意義)	臨床現場での多重課題対応を想定したシナリオを作成し、患者・家族・看護師をリアルに演じる。複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドでの確に情報獲得する力、優先順位を決定し行動する力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について理解を深める。	
キーワード	臨床多重課題、情報獲得、優先順位、時間管理、連絡・報告・相談	
身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 優先順位を判断し行動する力 <input type="checkbox"/> 業務量と自己の力量を照合し、事前準備・時間配分する力 <input type="checkbox"/> 看護チームにおいて、適時に連絡・報告・相談・協力依頼する力 <input type="checkbox"/> 患者・家族に説明し同意を得る力	普遍知 <input type="checkbox"/> 観察する力、状況をつかむ力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力、目の前の事態に対応する力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力、根拠をもとに説明する力、他者のプレゼンから学びとる力 <input type="checkbox"/> 成長や成果を評価する力、より成長しようとする意欲
学習アウトカム	「臨床多重課題シナリオ」、ロールプレイング	
評価方法	評価表に基づく「臨床多重課題シナリオ」とロールプレイングの評価(学生・教員評価)	
実施月日 月 日～ 月 日	8月～10月 ▶ 11月 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 準備 ビジョン・ゴール 計画 情報・解決策 制作 プレゼン 再構築 成長確認 </div>	
講義室・場所	教室、図書室、演習室	
展開内容	講義・AL	自学
プロジェクト外学習 ビジョン：看護チームの一員として、臨床現場で多重課題・複雑性に対応できるようになりたい。 ゴール：臨床からの確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる	事前：8～10月臨地実習場で情報収集(臨床現場で看護師はどのような多重課題に遭遇しやすく、どのように対応しているか。看護師を観察、看護師にインタビュー等)<個人ワーク>	
	1回目/授業全15回：2事例の人物想定(「R10シート」作成)<グループワーク> →看護計画立案<個人ワーク>	
	6回目：<講義>臨床多重課題への対応	
	7・8・9回目：2事例に同時対応する「臨床多重課題シナリオ」を作成<グループワーク>	
	10回目：ロールプレイングの準備・練習<グループワーク>	
	11・12回目：ロールプレイング発表会<全グループ合同>	
プロジェクト外学習 e ラーニング	http://www.mm-miraiyouiku-onlinecourse.com/	
テキスト・参考図書	系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院	
履修要件	成人・老年看護学実習Ⅲ、小児・母性・精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得し、看護の統合と実践実習の履修を控えた学生	
他講義との関連	看護の統合と実践実習(複数患者受け持ち、メンバー看護師業務見学、夜間実習)	
受講生へのメッセージ	臨床現場で看護師が遭遇しやすい多重課題対応をイメージし模擬体験することで、直後に控えた「看護の統合と実践実習」(初めての複数患者受け持ち)や、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かしてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 多職種連携	授業担当者 渡部 暢子 大塚 紀子 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期 :前期	単位数 :1 単位	時間数 :15 時間	
授業の目的 地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供に向けて、お互いの職種の特徴を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けて、よりよい方法をともに検討し実現をめざす基礎的能力を養う。			
授業の概要 看護師の役割、チームアプローチについては1・2年次の講義で基礎的知識は学んでいる。臨地実習では、多職種カンファレンスを見学する場面もある。本科目では、複数の職種の学生と共通の事例に取り組み、「専門職連携の実際」を体験し学ぶ機会とする。多職種の学生と一つのチームになり、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法を討議することで、役割の違いや連携の意義と協働にむけて方向性を理解できる力を養って欲しい。			
受講上の注意・事前学習の内容 以下の6つの目標のもと、理学療法士、栄養士を目指す学生と2回にわたり協同学習を行う。グループで1つの事例について取り組むが各自が主体的に看護の専門性について考え臨んでほしい。 目標 1. 多職種の役割と責務について、多職種と共有する 2. 多職種間のコミュニケーション能力を身につける 3. 対象者志向の倫理観をもつ 4. 多職種間で対象者の目標を共有する 5. 対象者の目的達成、ケアの質向上に向けてともに考える 6. 多職種協働・連携に向けての展望をともに語る			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	・多職種連携とは ・関連職種連携ツールとしてのICF ・多職種の役割機能理解	講義	渡部暢子
2・3	・専門職連携学習の準備:看護師の役割、事例提示 看護計画、倫理的態度	講義	渡部暢子
4	協同学習:専門職連携学習の実際「多職種の役割理解、相互理解・尊重」	学外演習	渡部暢子 大塚 紀子 齊藤 豊子
5	・専門職連携の実際の準備:看護計画、カンファレンス内容	講義	渡部暢子
6	協同学習:専門職連携学習の実際「対象の目標共有」	学外演習	渡部暢子 大塚 紀子 齊藤 豊子
7	・専門職連携学習の成果 リフレクション	講義	渡部暢子
8	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院			
参考書・指定図書 メディッコ著 現場から学ぼう! 看護師のための多職種連携攻略本 株式会社シービーアール			
評価の方法 筆記試験および課題・参加態度により総合的に評価する。			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 総合学習	授業担当者 渡部 絵美 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
開講時期 :前期	単位数 :1 単位	時間数 :30 時間	
授業の目的 看護師国家試験に向けた学習を通して、自律した学習者としての学習方法について学ぶ。			
授業の概要 総合学習では、看護師国家試験に向けた学習を通して、よりよい看護をしたいという思いと関心を持って学ぶ姿勢を養い、学習習慣を身につける。また、自己の課題に気づき、解決に向けた努力ができるように主体的に学ぶ必要性を感じてほしい。疑問を探求できるようにコーチングを受けながら、学習方法について学ぶ。実習や講義と並行して、自律して国家試験学習に取り込む。			
受講上の注意・事前学習の内容 問題集、レビューブック、国試ファイル、分析表、計画表など学習に必要なものを揃えて臨むこと			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護師国家試験ガイダンスⅠ	講義	渡部
2	看護師国家試験ガイダンスⅡ(必修学習計画・模試ふり返り)	講義・個人ワーク	渡部
3	自己の傾向分析・ふり返り	個人コーチング	全教員
4	自己の傾向分析・ふり返り	個人コーチング	全教員
5	模試ふり返り	個人ワーク	
6	模試ふり返り	個人ワーク	
7	年間学習計画作成	講義・個人ワーク	渡部
8	年間学習計画	個人コーチング	全教員
9	年間学習計画	個人コーチング	全教員
10	模試振り返り	個人ワーク	
11	模試振り返り	個人ワーク	
12	模試振り返り	個人ワーク	
13	模試振り返り	個人ワーク	
14	模試振り返り	個人ワーク	
15	模試振り返り	個人ワーク	
	試験		
テキスト 必要に応じて資料を配布する。			
参考書・指定図書 看護師国家試験 パーフェクト必修問題対策 メヂカルフレンド社 看護師国家試験問題集			
評価の方法 出席状況・筆記試験により総合的に評価する			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護論実習	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを総合的に理解し、在宅看護を必要とする人々が望んでいる生活や生き方を支援できる看護の実践能力を養う。		
授業の概要 本実習は、複合老人福祉施設リンデンバウムいずみ(特別養護老人ホーム・通所介護・地域包括支援センター・看護小規模多機能型居宅介護)、福祉複合施設ウェルビューいずみ(障害福祉サービスセンター)、中通訪問看護ステーション、中通ケアプランセンター、中通健康クリニック、社会福祉法人遊心苑(通所リハビリテーション)で行う。 施設実習では、地域で生活する人々を支える多様な場での見学、実践を通して福祉施設の機能や役割、地域包括ケアシステムの実態を学ぶ。また、多職種の中の看護職の専門性を理解し、地域包括ケアシステムの推進について考える機会とする。訪問看護ステーション実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通じ、地域で暮らす人々の実態を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。また、健康クリニック実習を通じて、保健活動について考える機会としたい。 実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習場所・施設が多岐にわたり、これまでの実習環境との違いを感じて緊張度が高まることが予想されるが、報告・連絡・相談を心掛け臆することなく、主体的な学びの場としてほしい。 基礎的知識として、実習要綱に提示している事前学習を行うこと。		
授業計画 1. 複合施設実習 3 日間、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、及び健康クリニック実習を合わせて 3.5 日間、通所リハビリテーション 1 日間とする。 2. 施設実習では、0.5～1 日間ずつグループを数名に分けて各施設を周る。見学が中心となるが、可能な範囲で修得できているケアを実践する。日々の記録に、実践記録とともに、各施設の役割や看護職の役割についてまとめる。更に、各専門職の講義を受け学びを深める。 3. 訪問看護実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとに臨床判断プロセスを用いて訪問記録をまとめ、訪問看護職の役割を考えられるようにする。1 ケースで在宅看護過程関連図を作成し、療養者の全体像を捉えられるようにする。ケアプランセンターでは、ケアマネジャーとの同行訪問場面を臨床判断プロセスを用いて記録し、その役割や多職種連携の在り方や地域包括ケアシステムについて考えられるようにする。健康クリニックでは見学を通じて、その機能について学びと考察を記録する。 4. 通所リハビリテーションでは、在宅生活を継続する利用者への関わりの実態を学び、通所リハビリテーションの役割・特徴、介護予防・看護の役割について考える機会とする。 5. 実習最終日に、実習ポートフォリオを用いて、成長報告を行う。		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践		
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア 介護施設の看護実践ガイド 日本看護協会		
評価の方法 ルーブリックに基づいて評価(教員・臨地実習指導者 80%、学生自己評価 20%)		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 成人・老年看護学実習Ⅲ	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 成人・老年期にある対象を総合的に理解し、機能障害を抱える対象の生活の維持・向上に向けての看護を実践できる能力を養う。		
授業の概要 本実習は疾患や加齢による機能障害を抱えた患者を受け持ち、科学的根拠に基づいて必要な看護を実践できる基礎能力(知識・技術・態度)を養う総合的な学習である。様々な機能低下が日常生活にどのような影響をもたらすのかを捉え、患者の強み、願いを考慮した目標を設定し、セルフケアの自立に向けた支援の方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習を進めて欲しい。本実習では、3年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習ガイダンスで提示した事前課題について学習し、それらを実習内で活用できるようにして臨むこと。 患者の状態を想定し、清潔、排泄に関する看護技術を練習すること。詳細については実習要綱・実習ガイダンス参照。		
授業計画 中通リハビリテーション病院 3階病棟にて実習を行う。 1. 実習ポートフォリオを作成する。 2. 患者を1名受け持ち、患者の個別性を考慮した看護を展開し実践する。 3. 見学や実践を通し、成人期・老年期にある患者の日常生活援助の方法を学ぶ。 4. 実践・カンファレンス等を通し、患者理解を深め看護アプローチについて考える。 5. 実践や評価会議を通して、チーム医療の在り方や連携と協働、リハビリテーションに関わる各専門職種との役割、およびチームの中の看護師の役割について考えを深める。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習で獲得したことや学びについてプレゼンテーションを行い共有する。		
テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		
参考書・指定図書 写真でわかる リハビリテーション看護アドバンス インターメディカ		
評価の方法 成人・老年看護学実習Ⅲのルーブリック評価表に基づいて評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護学実習	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 子どもの成長発達を理解し、子どもと家族がその人らしく健康な社会生活を営んでいくために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。		
授業の概要 保育所実習では保育活動に参加することで、成長発達は個別的であることに気付き、その子に合わせた関わりの重要性を学ぶ機会となります。さらに、子どもとの遊びの中でコミュニケーションや子どもの権利を守るとはどういうことかを実践的に学びましょう。 病院実習では、主に健康障害を持つ子どもと家族に関わり看護を展開します。健康障害が子どもや家族に及ぼす影響を多角的に捉え、どのような支援が必要かを考えます。 また、子どもにとって馴染みのない環境での生活や医療行為は健康回復のために必要であっても、恐怖や不安を感じる体験です。子どもの心理的影響を最小限にするための、プレパレーションやインフォームド・アセントについて考え、実践してみましょう。 少子化・多様性の社会の中で次世代を担う子どもへの関心が高い一方、育児不安や児童虐待などの社会的な問題も起きています。全ての子どもがその子なりにしあわせに調和した成長発達を遂げるには、医療・福祉・教育の連携が不可欠です。社会情勢にも目を向けながら関係機関や職種の役割を考えてみましょう。		
受講上の注意・事前学習の内容 動画や実際の子どもの様子と授業で学んだ成長発達の知識を結びつけ、各年代の子どものイメージを掴んでおきましょう。 ガイダンスで「小児看護学実習ワークブック」を配布します。実習が始まるまでに取り組んでおいてください。		
授業計画 ○学内実習 ・実習初日:実習ガイダンス・事故予防学習会 ・実習最終日:実習終了カンファレンス・実習の振り返り面談 ○保育所実習 ・ならやま認定こども園またはウェルビューいずみこども園のいずれかで3日間行う。 ・園の活動や遊びに参加し、乳幼児の成長発達の特徴や関り方を実践的に学ぶ。 ○病院実習 ・入院中の子どもを受持ち、看護過程を展開する。 ・見学や実践を通し、小児看護技術を学ぶ。 ・カンファレンスで見学や実践したことを交流し、様々な発達段階や疾患に対する看護を学ぶ。さらに、子ども観や子どもの看護について考える。 ○小児科外来・乳幼児健康診査・病児保育室の見学実習 ・看護師が活動する小児科外来・乳児健診・病児保育室の見学実習をする。 ・見学後、情報の共有とともに子ども・家族が地域・社会の中で健やかに成長発達することを支える看護について意見交換する。		
テキスト 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院 ブックライブラリー 発達段階からみた 小児看護過程 +病態関連図 第4版 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故予防からみた小児看護技術 第3版 医学書院		
参考書・指定図書 筒井真優美監修 小児看護学～子どもと家族の示す行動への判断とケア～ 日総研 川上一恵編集 子ども発育・発達と乳幼児健診 診断と治療社 山元恵子監修 写真でわかる小児看護技術アドバンス～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ		
評価の方法 小児看護学実習ルーブリック評価表に基づき評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母性看護学実習	授業担当者 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 周産期にある対象とその家族、地域における母子の保健活動を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を学習する		
授業の概要 実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから实际的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生 2 人で 1 組の褥婦と新生児を受け持ち、対象の経過に応じた看護の実践を学ぶ。また、退院後の生活を見据えた指導や母子を支える医療チームアプローチの実際を知り、看護の専門性について理解を深める。実習終了カンファレンスで自身の成長を確認・交流する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。 生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。		
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習(学習内容は実習要綱・実習ガイダンスを参照)に取り組み、実習ポートフォリオに綴じ、実習の中で活用できるように準備して臨むこと。母性看護学を実践するために必要な技術(沐浴・児計測・新生児のバイタルサイン)は、根拠に基づき安全・安楽に実施できるように練習を積み重ね、経験の機会を逃さず実践できるよう主体的に実習に臨むこと。 ガイダンスで指導用パンフレットを貸し出します。事前に読み、実践時に活用できるようにしましょう。		
授業計画 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 妊婦健康診査を通し、妊娠経過に伴う生理的变化や妊娠期の看護の実際を学ぶ。 3. 臨床判断モデルに沿って母子をアセスメントし、日々の状況に即した看護を実践、評価する。 4. 看護実践・テーマカンファレンスを通して母子の保健活動における役割を理解し、看護の専門性を学ぶ。 5. 看護実践・カンファレンスを通し、母性・父性意識を発展させる。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習中に獲得した看護の学びをプレゼンテーションしあい、知の共有を図る。 7. 機会があれば分娩に立ち会い、分娩時及び出生直後の新生児の看護について学ぶ。		
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院		
参考書・指定図書 病気が見える vol.10 産科 第 4 版 メディックメディア ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 ブックライブラリー ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院		
評価の方法 母性看護学実習のルーブリック評価表に添って評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護学実習	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院
開講時期:前期～中期	単位数:2単位	時間数:80時間
授業の目的 精神に障害をもつ対象を理解し、その人らしい暮らしを支える看護を実践する能力を養う。		
授業の概要 精神障害のある対象に、1人の尊厳ある人間として全人的に関わることを学ぶ場であり、患者一看護者関係を構築するための技術が重要である。実習では言語的・非言語的コミュニケーションを用いてコミュニケーションの基本的な姿勢である傾聴や共感について深く考える機会となる。また、すべての看護に共通するコミュニケーション技術を再確認する実習としたい。		
受講上の注意・事前学習の内容 事前学習の内容は、実習要綱、精神看護学実習ガイダンス参照。		
授業計画 秋田回生会病院、県立リハビリテーション・精神医療センターのいずれかで実習する。		
実習日程	実習内容	
1日目	ガイダンス:実習目的・目標の確認、施設の概要を知る 「自分目標ゴールシート・目標達成シート」作成	学内(4時間)
2日目	病院案内 受け持ち患者紹介 情報収集・アセスメント	同行・見学
3日目	看護の方向性 確認 (個別面接)	・作業療法
4日目	患者紹介プレゼンテーション (病棟別)	・レクリエーション
5日目	患者目標に沿った実践	・SST
6日目	テーマカンファレンス	・電気けいれん療法
7日目		・デイケア
8日目	成長報告書②(成長エントリー)のコーチング(個別指導)	など
9日目	成長確認プレゼンテーション(病棟別)	病院:8:30～16:15 (9時間×8日間)
10日目	患者紹介プレゼンテーション・成長確認プレゼンテーション(グループ全体) グループ全体で交流することで、精神看護の理解に繋げる 小テスト:知識の確認	学内(4時間)
テキスト 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 医学書院		
参考書・指定図書		
評価の方法 ルーブリック評価、教員の評価 80点+自己評価(実習ポートフォリオ)20点分とする。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護の統合と実践実習	授業担当者 近江 薫	所属 中通高等看護学院
開講時期 : 中期	単位数 : 4 単位	時間数 : 160 時間
授業の目的 医療・看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。		
授業の概要 本実習は、これまでの専門分野・統合分野の知識・技術を統合して実務に即した実習を行い、看護管理とチームでの看護の仕事学ぶ実習である。看護管理、チームで協働する看護、複数患者受け持ち、夜間実習といった看護活動の見学・実践を通し、臨床実践の中で必要となる基礎的な知識と技術を総合的に体験できる機会となる。患者ケアに優先順位をつけることの大変さや大切さを体験し、またスタッフ同士の情報共有の重要性を学ぶことができる。受け持ち患者中心の実習を終え、間もなく看護師として働く者として、看護のさまざまな業務場面を身近にしなが、自分自身が行動レベルで看護実践力を育む機会としてほしい。		
受講上の注意・事前学習の内容 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンスを参照してください。 間もなく新人看護師になる皆さんが、看護場面を身近なこととして捉え、実習での学びを通し自己のキャリアビジョンを明確に描き専門職業人となる展望が持てるような実習となることを期待します。		
授業計画 1. グループを 3 班に分け、複数患者受け持ち、看護管理・夜間実習・多職種連携等をローテートする。 2. 看護師長・リーダー看護師・メンバー看護師・夜勤看護師の業務の見学、多職種との連携場面の見学を通し、看護師の役割について学ぶ。 3. 患者を 2 名同時に受け持つ。患者ゴール(目標)を設定し、実践の中で援助の優先順位の決定や多重課題に対応できるようにする。 4. 受け持ち患者に必要なケアの実施、一人で実践可能なケアの拡大、メンバーの協力を得て実践可能なケア、今まで経験したケアの深化、経験項目を増やすなど看護技術の向上を図る。 5. 成長報告プレゼンテーションを通し自己の看護観を深め、専門職業人として従事することへの展望を持てるようにする。		
テキスト 系統看護学講座 専門 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器 医学書院		
参考書・指定図書		
評価の方法 看護の統合と実践実習ルーブリック評価表に沿って評価する。		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります